

## 夏秋キュウリ（露地栽培）の病害虫の発生状況（8月中下旬）

### 1 ベと病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。高湿度や肥切れにより、本病が発生しやすい条件となるため、適切な施肥を実施し、発生初期から防除を実施してください。

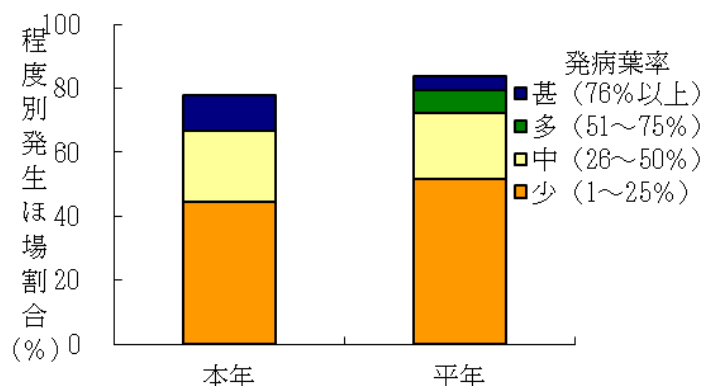


図1 ベと病の発生状況

### 2 うどんこ病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年より低い状況でした（図2）。まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施してください。

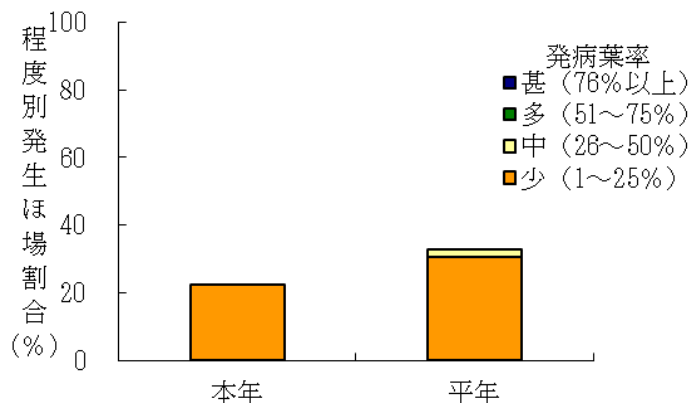


図2 うどんこ病の発生状況

### 3 褐斑病

巡回調査では発生が確認されませんでした（図3）。まん延すると防除が困難となるので、り病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

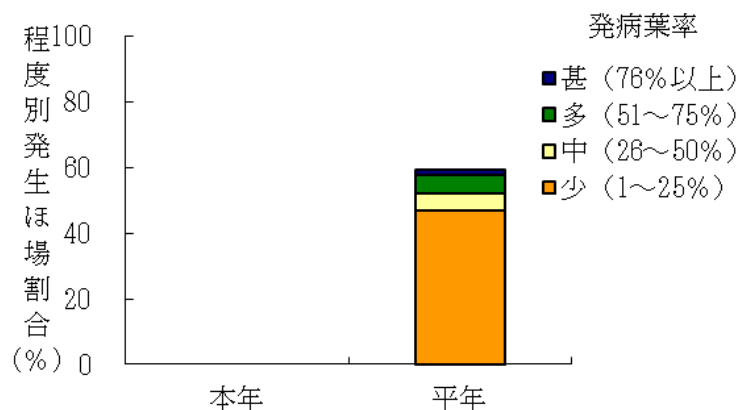


図3 褐斑病の発生状況

## 4 炭疽病

巡回調査による発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図4）。まん延すると防除が困難となるので、り病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

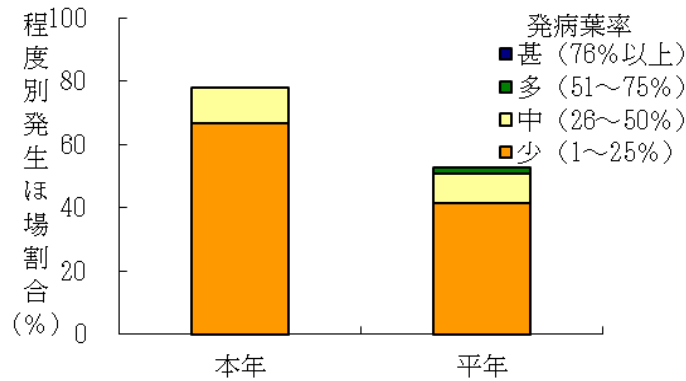


図4 炭疽病の発生状況

## 5 つる枯病

巡回調査による発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図5）。まん延すると防除が困難となるので、予防的防除を実施してください。発生を確認した場合、被害部分を速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分してください。

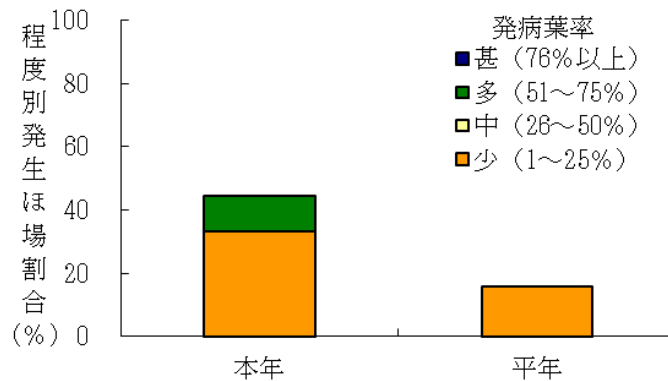


図5 つる枯病の発生状況

## 6 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図6）。ほ場をよく観察し、発生がみられた場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

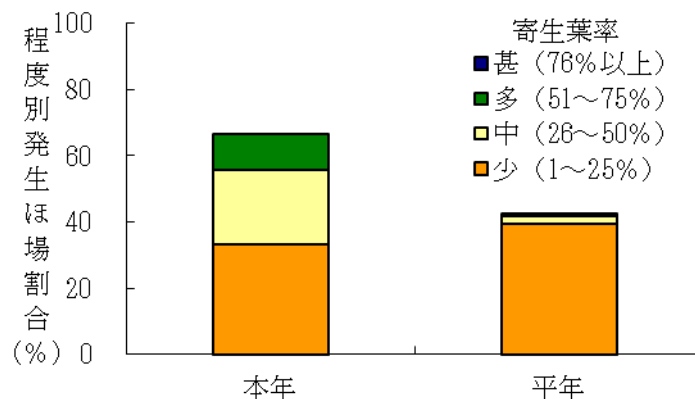


図6 アブラムシ類の発生状況

## 7 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図7）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

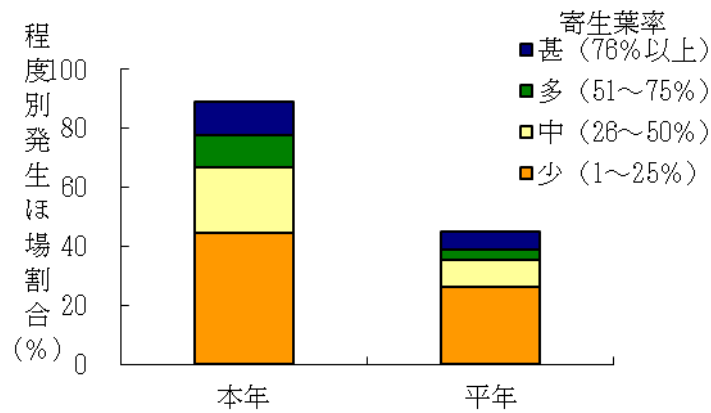


図7 ハダニ類の発生状況

## 8 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図8）。特に花の中への寄生が多く確認されています。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤抵抗性の発達を防止するため、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

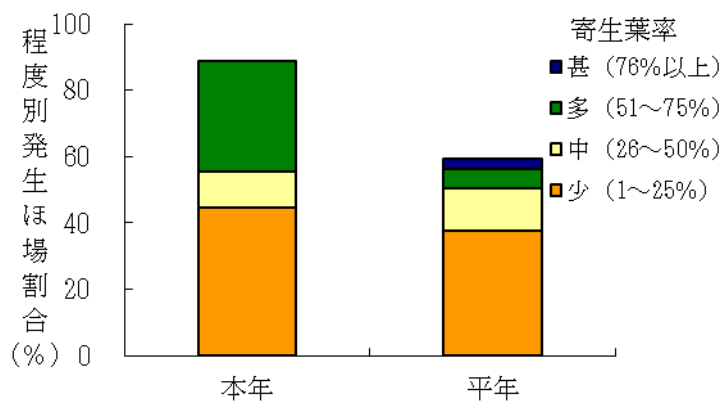
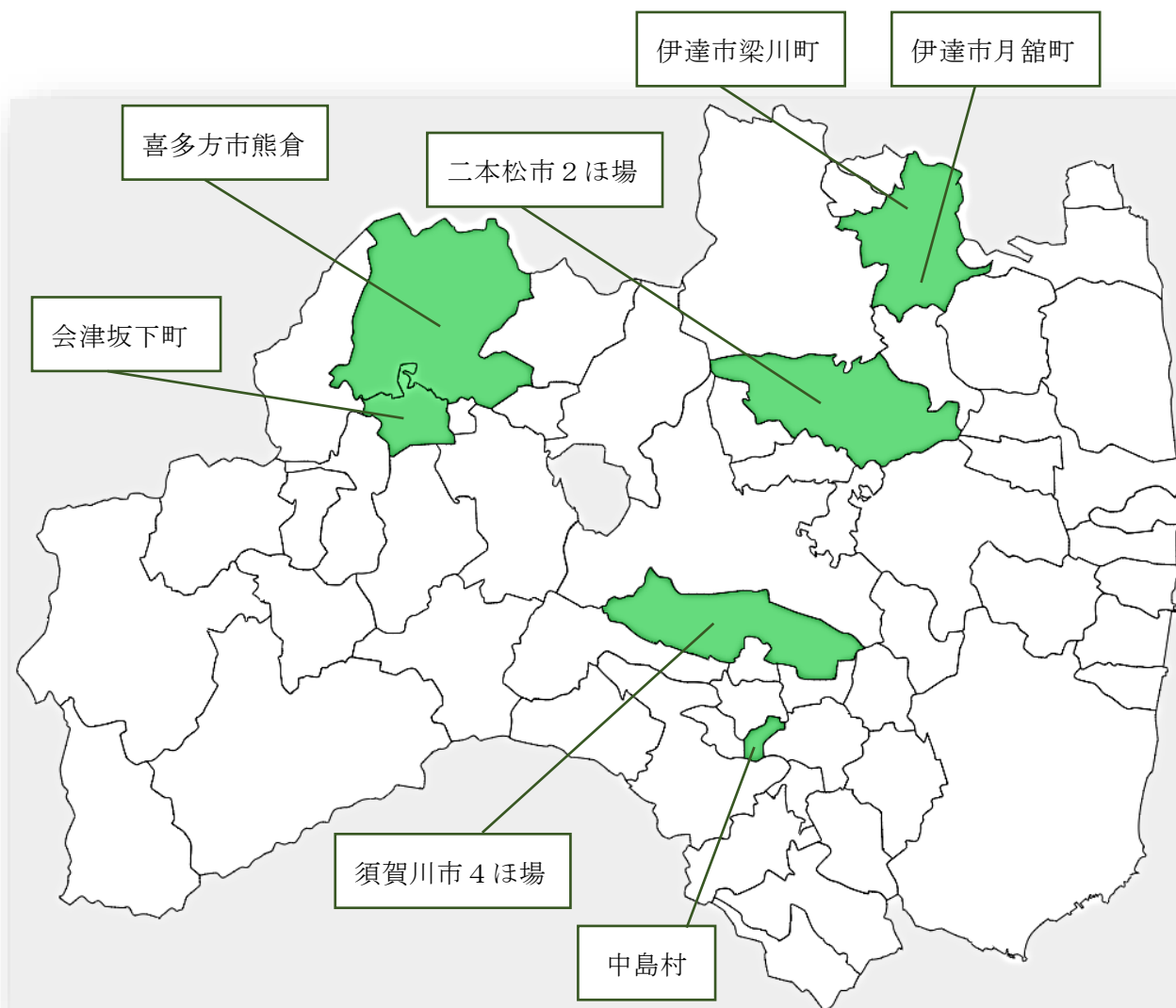


図8 アザミウマ類の発生状況

※ 夏秋露地きゅうりの巡回調査では、下記の11ほ場を調査しています



● 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp